

【評価実施概要】

事業所番号	2770107437
法人名	株式会社ダスキンゼロケア
事業所名	ダスキンゼロケア津久野センター
所在地	大阪府堺市堺区神石市之町16番25号 FOCTファーストビル (電話) 072-267-6525
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成19年11月15日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤7人, 非常勤4人, 常勤換算	9.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	4階建て部分の3階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(3年償却)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当た 円			

(4) 利用者の概要(平成19年10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	67歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大仙病院、馬場記念病院、いずみクリニック、米山歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ダスキンゼロケア津久野センターはJR阪和線津久野駅から徒歩12分のところにあり、石川沿いの静かな環境に恵まれた4階建てビルの3階部分をグループホームとしている。同じ建物の中では通所介護、訪問介護と居宅介護支援などの事業を行っている。法人の理念として「その人らしく住み慣れた地域で暮らし続けること」を掲げ、利用者一人ひとりを支えるケアを目指している。日頃からセラピー犬を飼育し利用者との触れ合いを大切に、さらに、毎日の買物を職員と利用者と一緒にすることなどに力を入れてケアに取り組んでいる。また、運営推進会議を通して地域の方々との交流から、利用者が地域の老人会や敬老会、夏祭りなどに参加している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、共用空間での居場所の確保、トイレの場所間違いの防止のための表示方法の検討などが指摘されていたが、廊下の一角にソファを設置しセミパブリックスペースを、トイレの表示もわかりやすい表示に変更するなど、改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果を活かして、評価で見出された課題について改善計画を作成し、積極的に改善に取り組んでおり、成果を挙げている。しかし、外部評価の目的や活用方法を全職員が理解するまでには至っていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に一度開催し、グループホームでの行事や活動状況、事故や苦情などの報告を行うとともに、話し合いを通じて情報交換の場とし、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。さらに、地域の連合町内会長や民生委員などからも率直な意見をいただき、老人会や地域の夏祭りなどに利用者が参加する契機となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議には家族会の会長も参加されており、率直な意見や不満・苦情を聞き取る努力をしており、サービスの質の確保や向上に活かしている。毎月家族には金銭管理報告を行っているが、その際に利用者の最新の様子を書き添えており、外出や行事の写真を同封するなどグループホームでの暮らしぶりや健康状態などを伝えている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	利用者は地域の老人会や敬老会、夏祭りの盆踊り大会など様々な行事に参加している。グループホームで飼育しているセラピー犬との散歩、菜園での農作業や買物時などに地域の方々との触れ合いが日常的にみられるなど、積極的に交流を行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	無上の喜び（お客さまの喜びを私たちの喜びに）、無心の奉仕（真心をこめた介護サービスを提供）、無限の研鑽（最新の知識と技術を習得し、優秀性を追求）を理念として掲げている。利用者がその人らしく住み慣れた地域で安心のある生活を続けることを支援するとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回職員全員での集いの場で職員に理念を伝え、利用者第一でケアに取り組んでいる。運営推進会議の席でも参加者に説明し、事業所での行事などの際には家族の方々にも話をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所自体が地域から孤立することなく、地元の活動や住民との交流に取り組んでいる。利用者は老人会のふれあいサロンや敬老会、盆踊り大会などの行事や障害者が開く麦の会のバザーに参加している。セラピー犬の散歩や菜園での作業時などにも住民とのふれあいがある。さらに、地域の他の事業所との交流、介護相談会や介護技術向上のセミナーの開催も予定している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の外部評価を活かして、改善点は積極的に改善に向けて取り組んでおり、成果を挙げている。しかし、評価の目的や活用方法を全職員が理解するまでには至っていない。	○	外部評価の受審に際して、その意義や活用方法などを全職員で共有化し、理解を深めていくことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し、議事録を残している。会議ではグループホームでの行事や活動状況、事故・苦情報告などを行い、話し合いを通じて連合町内会長や民生委員などの参加メンバーからも率直な意見や協力をいただきながら、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市町村担当者も参加している。事業所の所長は市町村担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情などを積極的に伝える機会を作り、介護相談員の導入を検討するなどサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月金銭管理報告を行うと同時に、その時々での利用者の様子を伝えている。外出や行事など利用者の様子を写した写真なども同封するなどして暮らしぶりや健康状態などを伝えている。ホーム便りは前年度に発行しているが、今年度は未発行である。	○	ホーム便りが今年度は休止とのことであるが、継続的に発行することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の確保・向上のために、すべての家族などから率直な意見や不満・苦情を聞き取る努力をしている。現在運営推進会議には家族会の会長が出席している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は少なく、利用者と職員が馴染みの関係を保つことを重視している。やむを得ず交代する場合は、馴染みの職員が新しい職員を紹介し、利用者への影響を少なくするための配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、職員の育成のために学びの機会を確保し、職員の希望に応じて研修を受けることができる。研修の受講後には報告書を提出し、現場で発表する機会を設け、職員間で共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に参加し、同業者との交流や連携、情報交換を行っており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所開始前に事業所併設の通所介護サービスや訪問介護サービスを利用しながらグループホームを見学したり、体験入所を行うなど、利用者が職員や他の利用者、雰囲気などに徐々に馴染み、安心して納得しながら利用できるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はゆっくり、のんびりとした雰囲気を大事にしており、入浴後の気分がリラックスしたときの会話や、一緒に座ってテレビを見る時間を大切にするなど利用者が安心して過ごせるように配慮している。また、回想法を取り入れ、昔の道具の使い方などを職員に教えるなど、利用者本来の個性や力を活かしてもらうための努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりのきめ細かな観察を大切に介護している。一泊旅行に出かけた時などにも利用者の新しい情報を収集できることも多い。さらに、面会時家族に利用者の外出希望や食べたいものの希望を聞き取りするなどして、これらを申し送りノートに細かく記入すると同時に日々のケース記録にも書きとめて情報の共有を行っている。	○	入所後に得られた新しい情報は申し送りノートや日々のケース記録に記載するだけでなく、これらの情報を利用者個々のファイルにまとめて記載する方法を検討することが望まれる。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、カンファレンスで話し合い、職員の意見や提案を収集し、介護計画を作成している。サービス担当者会議を2か月に1回開催し、家族や後見人も参加しそれぞれの意見などを聴取している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、体調やADLの変化に応じて随時見直しを行っている。ケース記録に、介護計画の課題を基に日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ボランティアによる蕎麦打ちや寿司の出前の実演・体験、後見人による入院の支援などを行っている。職員と一緒に利用者の入院された配偶者の見舞いや葬儀にも参列している。併設の通所介護サービスでのレクレーションや行事にも参加して、交流を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医が毎週1回、心療内科医が2週間に1回の訪問診療がある。歯科医の訪問診療はなく、協力医療機関で受診している。なお、利用者の症状により専門医の紹介を受けている。利用者が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるようにも支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について、入所後すぐに利用者・家族や、かかりつけ医、ケア関係者などと話し合いの場を設けている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の記録や情報などは施錠できる場所に保管している。ホーム便りへの利用者の写真の掲載についても家族などから承諾書を得ている。トイレに保管している個人用のパットが誰のものか判らないように記号で記入するなどの工夫をしている。研修にも個人情報保護のプログラムを取り入れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1か月毎に日課表を作成しているが、一人ひとりの生活のリズムや利用者がしたいと思っていることを大切に、日々の暮らしがその人らしいものとなるような支援をしている。外食時には利用者の希望に合わせてメニューを決めていただく、衣類などの買い物も利用者が自分で選ぶといった姿勢の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者とともに一人ひとりの力を活かしながら食材の購入、食事づくり、食後の後片付けといった一連の作業を行っている。利用者は使い慣れた食器を使用し、職員も利用者と一緒に食事を味わいながら、さりげなく支援している。メニューも家庭のようにその日の買物で利用者の希望を取り入れながら決めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週に3回、男性と女性が日替わりで入浴している。さらに、その日の利用者の状況に応じて、次の日に入浴できるように支援している。入浴の時間帯は午後である。夏場にはシャワーの利用も可能である。希望者には寝る前に足浴を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の買い物・散歩・セラピー犬の散歩や世話など日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう支援している。利用者が自分らしく暮らせるよう、趣味や生活歴を聞き取り、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気晴らしの支援ができるように努力している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	セラピー犬との散歩、外出、行事への参加、散歩や買い物、菜園での農作業など日常的に外出できるような個別の支援を行っている。また、一泊旅行も行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中は鍵をかけないすむように、玄関にセンサーチャイムを設置するなどの工夫をしている。また、職員は身体拘束廃止の研修にも参加している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練を年2回行っており、消防訓練報告書・避難訓練実施記録が整っている。非常時の対応マニュアルも整備している。非常食として水・カップラーメン・味噌汁など2～3日分を備蓄している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事カロリー量の計算はしていないが、食事摂取量は記録している。カロリー量の過不足や栄養の偏り、水分摂取量の不足が起こらないよう、週1回体重測定を行っている。水分摂取量に注意が必要な利用者には介護計画書に取り込み、摂取量のチェックを行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には家庭的な雰囲気の家具や利用者の家族が描かれたレトロな雰囲気の絵画、外出時の笑顔の写真などが飾られ、居心地良く過ごせるように配慮している。また、気の合った利用者が窓の外の景色を眺めながらゆっくりと過ごせるように廊下のスペースをうまく活用してソファを設置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた筆筒、テレビ、写真、ソファなどを持ち込まれ、居心地良く過ごすための環境づくりがされている。居室にはベッドのほか畳を持ち込み和風仕立てのものも見られる。		

※  は、重点項目。